

5 出かけよう！

5 友達と一緒に出かけよう！



*〇〇に行きます。

*〇〇に行きませんか？

*いつですか？

*何時に会いますか？

*どこで会いますか？

*〇〇に行かん？

{ いいですね、行きましょう。
すみません、ちょっと・・・。

{ いいよ、行こう。
ごめん、ちょっと・・・。

(1) お出かけに誘おう

- ① お店と売っている物の名前を言う・・・ジャスコ、デオデオ、・・・
建物写真カード・品物カードを使います。



ジャスコ



デオデオ



フタバ

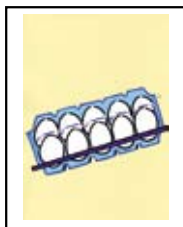


ジョイフル



インタビュー2で調べた、学習者がよく行くお店の写真を使います。
名前は、正式名称でなくてもいいです。学習者や町の人が実際に使っている名前を使いましょう。

- ・ S1は建物写真カードを見せながら名前を言い、リピートしてもらいましょう。
- ・ ここに出るお店の名前はすでに学習者の知っているものもあるのでゲーム感覚でテンポよくいきましょう。



- ・ ①と同様に品物の名前も確認します。



4回目参加者には復習、参加していない人にはお店情報を提供します。テンポよく進めましょう。



② お店で売っているものを言う・・・卵があります。

品物カード (小)・**建物写真カード**を使います。

S1
ジャスコ

- ・ お店の名前をみんなで言いながら、**建物写真カード**を一枚ずつ机の上に置いていきます。

L全員
ジャスコ

S1
卵があります。

- ・ そのお店で売っている**品物カード(小)**を見せて、「〇〇があります」と言いながら**建物写真カード**の上に置いていきます。

L全員
卵があります。

- ・ 次に置いてある一つひとつの**品物カード(小)**を押さえながら、「〇〇があります。」と全員で言います。

L各人
〇〇があります。

- ・ **品物カード(小)**を集めて、順番に一枚として「〇〇があります」と言って、**建物写真カード**の上に置くようにすすめます。

③ 行き先を言う・・・広公園に行きます。
建物写真カード・場所写真カードを使います。

- まず、学習者と一緒に建物写真カードや場所写真カードを教室のあちこちに貼りましょう。

S1
広公園
行きます。

- S1は「OO（お店や場所の名前）」と言いながらカードを指さして、「行きます。」と言って、実際に建物写真カード・場所写真カードのところまで行きます。S1が歩いている間、S2は「行きます。」をくり返し言います。

S2
広公園に行きます。

- 次にS2が、「OOに行きます」と言ってから、写真のところまで行きます。

- ピンときたような学習者がいたら行き先を指定して、「OOに行きます。」と言ってからカードのところに行くように促します。もし、何も言わないで歩き始めたら、代わりに言いましょう。

L1
OOに行きます。

広公園に行きます。



帰ってきた学習者に、
「お帰り～」の一言を！

④ お出かけに誘う(1)・・・〇〇に行きませんか？いいですね。行きましょう。

場所写真カード・？カード・OKサイン写真カードを使います。

- ・ 地図で場所を確認しながら**場所写真カード**を使って「広公園」「かるが浜」「宮島」を紹介。



学習者がよく行く公園とビーチです。



広公園

かるが浜

宮島



中国のOKサイン



ブラジルのOKサイン



インドネシアのOKサイン

- ・ 「△△さん」と呼びかけて、**場所写真カード・？カード**を見せて誘いましょう。

- ・ その日の学習者に分かりそうな **OKサインカード**を見せて言います。

- ・ **？カード・各国のOKサインカード**を見せながら、口慣らしの練習をします。

S1
△△さん、宮島に行きませんか？

S2
いいですね。行きましょう。

S1
△△さんと宮島に行きます。

Ｌ全員 → 一人ひとり
行きませんか？ いいですね。行きましょう。



④も⑤出来そうだったら、すぐ学習者にしてもらいます。
まだ難しいようだったら、行き先を変えてS1・S2でくり返しましょう。
続いて、S2の役、学習者同士と段階的に練習します。
学習者同士のやり取りでつまったら、スタッフが様子を見てサポートしましょう。

- ⑤ お出かけに誘う(2)・・・〇〇に行きませんか？ すみません、ちょっと・・・。
NOサインカード、場所写真カードを使います。

断る時の表現は、はっきりと断る「いいえ、行きません」は使いません。やんわり「すみません・・・」と断りましょう。S2は感情を込めて答えましょう！！

- ・ S1は**場所写真カード**を見せてS2を誘います。

S1
 △△さん、かるが浜に行きませんか？

- ・ S2は**NOサインカード**を見せて断ります。

S2
 すみません、ちょっと・・・。

- ・ 笑顔で気持ちよくわかります。

S1
 じゃあ、またこんど。

- ・ **?カード・NOサインカード**を使って練習します。

Ｌ全員 → 一人ひとり
 行きませんか？ すみません、ちょっと・・・。



フィリピンのNOサイン

- ・ **?カードと場所写真カード・NOサインカード**を全員で回しながら、テンポよく繰り返します。

?カードと場所写真カードを持った人
 △△(名前)さん、〇〇に行きませんか？

NOサインカードを持った人
 すみません、ちょっと・・・。



時間と学習者の様子を見て、難しいようだったら次のページの
 (2)を次回にまわして、応用編に進んでください。
 いつも柔軟性のある活動にしましょうね。

(2) 約束をしよう

① 行く日を決めよう・・・いつですか？ 明日・土曜・日曜

場所写真カード・カレンダー・？カードを使います。

- ・ **カレンダー**を使って、明日・土曜日・日曜日を導入します。



- ・ カレンダーの上で**？カード**を動かしながら「いつですか？」と聞きます。



①と②では、はじめは行く場所・日・待ち合わせの時刻等を固定してみんなで練習し、慣れてきてから場所や日を変えて、いろんなペアで練習しましょう。

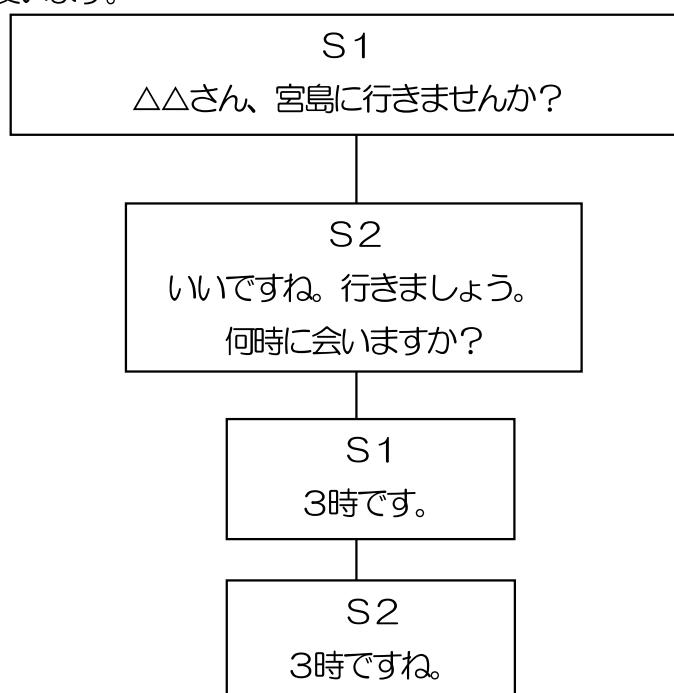
② 時間を決めよう・・・何時に会いますか？

場所写真カード、時計・？カードを使います。

- ・ 宮島の**場所写真カード**と**？カード**を持って誘います。

- ・ **時計**に**？カード**をあてながら「何時に会いますか？」と聞きます。
- ・ **時計**のいろんな時刻のところに**？カード**をあてて、「何時？」を繰り返し、両手の人差し指をくっつけて「会いますか？」と言います。

- ・ 「何時に会いますか？」の練習をしますが、意味が理解できていないようだったら**対訳リスト**を見せましょう。



③ 時刻を言う・・・1時・2時・・・

時計を使います。



時計を使って時刻を言います。
学習者の理解度をみて、いけそうだなと思ったら“半(はん)”も導入しましょう。



- ・ S1が時計の数字を指しながら言った後、どうぞと促して学習者に言ってもらいましょう。

S1
1時～12時

L全員 → 一人ひとり
1時～12時



S1
時計の針を動かし、時間を提示します。

L全員→一人ひとり
提示された時刻・・・

- ・ はじめはS1とS2が行います。
徐々に役割を変わり、学習者同士で練習するようにします。

S1
△△さん、広公園に行きませんか？

L1
いいですね。行きましょう。
何時に会いますか？

S1
三時です。

L2
〇時ですね。

- ・ **時計**の針を指定された時刻に動かして「〇時ですね」と確認します。

④ 場所を決める・・・どこで会いますか？

地域の地図・場所写真カード・建物写真カード・？マークを使います。



新広駅



広 駅



広市民センター

- 机の上に**場所写真カード・建物写真カード・？マーク**を種類ごとに分けておいて置きます。

S1
△△さん、宮島に行きませんか？

- 宮島の**場所写真カード**と**？マーク**を持って誘います。

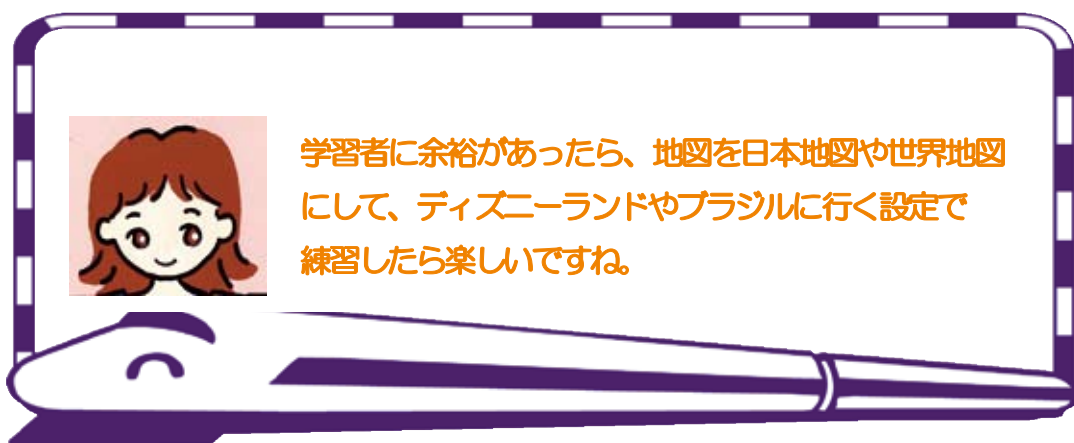
S2
いいですね。行きましょう。
どこで会いますか？

- 地域の地図**の上で**？マーク**を動かして「どこで会いますか？」と聞きます。

S1
広駅です。

- ？マーク**を渡して、S1の役を学習者にかわり一巡したら、S2の役も学習者にかわりましょう。

S2
広駅ですね。



(3) 誘ってみよう！



- ・ **教材**を机の上において、持ったり示したりしながらお出掛けに誘って約束をする練習をしましょう。一通り練習したら、他のグループのところに行って練習します。「すみません、ちょっといいですか？」とお願いしてから始めましょう。



△△さん、宮島に行きませんか？

日曜です。

9時です。

広駅です。

はいそうです。

いいですね。行きましょう。
いつですか？

何時に会いますか？

どこで会いますか？

日曜日・9時・広駅ですね

- ・ 担当者以外のスタッフに協力してもらって、学習者に誘う練習をしてもらいましょう。
- ・ スタッフと事前に打ち合わせをしておき、OK して、行く日にち・待ち合わせの時間と場所を決めること、その時使う表現等を把握してもらっておきます。
- ・ 聞かれることが事前に分かっている、学習者の発話をさえぎらないようお願いしておきましょう。
- ・ あくまでもその日の学習者の理解度をみて、するかしないかを決めましょう。
無理なようだったらしくなくてもいいですよ。



お出かけに誘おう 応用編

① カードを引いてロールプレイ

場所写真カード・OK サインカード・NOサインカード・?ボックスを使います。



初めにスタッフ二人でしてみせましょう。

教室内に場所写真カードを貼っておきます。

誘う役、誘われる役がそれぞれの箱の中からカードを引いて、みんなに見せます。カードの指示に従ってロールプレイします。

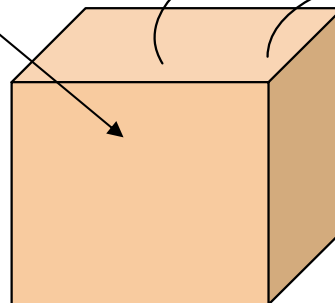
OK サインカードの時は、一緒に場所写真カードのところまで行きます。腕を組んだり手をつないだりして行きましょう。

NOサインカードの時は、笑顔で握手して別れます。



場所写真カード

?ボックス



OK サインカード
NOサインカード

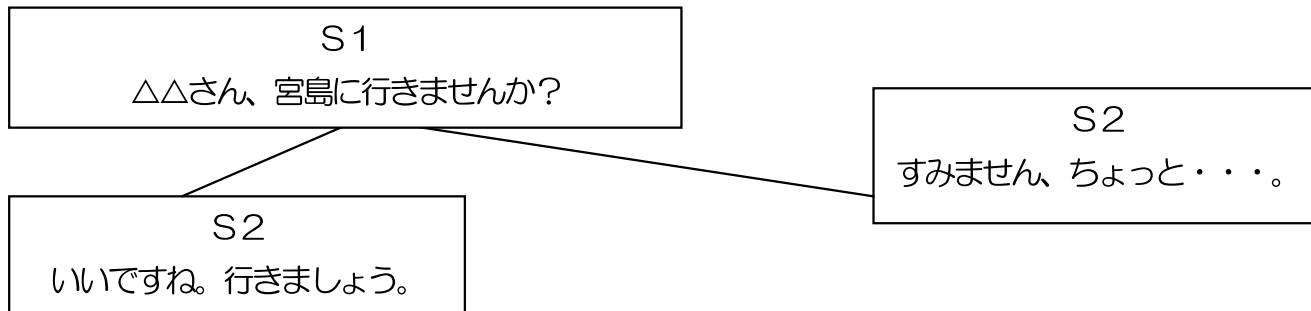


② 友達だったら・・・。

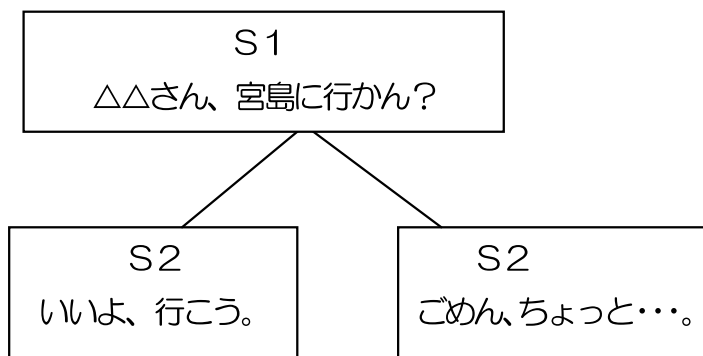
宮島に行かん？ { いいよ。行こう。
ごめん、ちょっと。

OK サインカード・NOサインカード・場所写真カード

- ・ まず、S1は若いスタッフ、S2は年配のスタッフで会話をします。



- ・ 次にS2を若いスタッフに代わって、親しい友達同士の会話をします。



6 おわりに

おわりに

私たちの町の、私たちの教室で使う教材がやっと生まれました。「必要だ！作りたい！」と長い間心に思い描いていましたが、なかなか実行できませんでした。今回文化庁からご支援をいただいたお蔭で、なんとか形にすることができました。行動を起こさせてくださった文化庁と呉市教育委員会に深く感謝しています。

編集委員会には、日頃直接外国籍市民と関わっておられる方たちに参加していただきました。委員の皆さんそれぞれの立場から有意義なアドバイスをたくさんいただき、それらを教材づくりに反映させました。特にひろしま国際センターの犬飼先生は、専門家としてしっかり支えてくださいました。

また、12月には（社）国際日本語普及協会の松尾先生と小瀧先生を呉にお迎えしてご指導いただきました。先生方はその後も続いて助言と励ましを寄せてくださって、私たちを力づけてくださいました。

今回の取り組みの成果は「作ったもの」だけではありません。今まで気づかなかった仲間一人ひとりが持っている素敵なところを、たくさん見つけられたのは大きな収穫でした。また、教材を作っていくうちに、私たちがめざしている日本語教室のあり方が鮮明に浮かび上がってきました。これからは、今まで以上に教室全体や地域を見据えた活動を、気楽に展開していけるようになると思います。

多くの人々の支援と、多くの人々の活動によってこの1冊はできています。作成に関わってくださった全ての皆さん、そして手にとって読んでくださったあなたに感謝申し上げます。

いつか、どこかで、何かが、始まりますように！

伊藤 美智代（編集委員・執筆者／ひまわり21）

本教材、「手をつなごう！一全員参加の教材づくりを目指して」は、その名の通り、教室に参加しているボランティア、学習者全員が参加して教材作成にあたったという点において、非常にユニークなものとなっていると思います。特に学習者の教材作成への参加は、ともすれば言葉だけとなりがちなボランティアと学習者の「対等」な関係を見直す貴重な機会になったのではないのでしょうか。

そういった意味で、この教材は作成された「結果」よりも「過程」を重視しているとも言えます。実際、この教材の作成過程において、執筆者、編集委員はもちろん、ボランティア、学習者、携わった全ての人に多くの「学び」があったように思います。この「学び」が、次への

ステップに繋がっていくことを期待したいと思います。

この教材を手にとられた方々にも、この「過程」を大切に、教材という「結果」に捉われることなく柔軟な姿勢で、各地域の実情等に合わせて利用していただければと思います。

犬飼 康弘（編集委員／（財）ひろしま国際センター）

このように立派な教材を作成された執筆者の皆様に敬意を表します。

さて、現在呉市に暮らす外国籍市民は約3200人ですが、10年間で2倍以上に増加しています。このうち多くの人は日本語能力が不十分であり、彼らが地域社会で孤立することなく日本人とともに暮らしていくためには、日本語コミュニケーション能力を身につけることが必要です。

現在、呉市では、ひまわり21の日本語教室の他にも団体や個人が日本語学習支援を行っていますが、今回作成された日本語学習教材は、彼らにとっても、身近な、利用しやすいものになると思います。

この教材の完成を契機に、外国籍市民と日本人との交流の輪がさらに広がり、多文化共生のまちづくりが進展するよう共にがんばっていきたいと考えています。

原田 祐輔（編集委員／呉市 秘書広報課 国際交流広場）

今回の事業に編集委員として参加して、私が日本語を学び始めた頃のたいへんだったことを思い出しました。

同じ発音なのに意味が違う言葉がたくさんあったり、今まで見たこともない記号のような文字だったりして、辞書を引くのも難しくて、一人で勉強するのはとても難しかったです。

この教材は、日本に来た外国人達が初めて日本語を学ぶ時、楽しく簡単に基礎を教わることができて、とても助かると思います。日本に暮らす外国人の一人として、細かいところまで配慮して、教材を作りあげてくださった皆さんに深く感謝いたします。

Meiry Matsuoka（編集委員／ブラジル人市民）

この教材は学習者、スタッフ共に、たくさんの人がそれぞれに出来ることを楽しみ、学びながら参加することで、このような形になりました。

“手をつなごう”という名前のとおり、教材作りを通した様々な取り組みの中で、目に見えない大切なものが少しずつ、つながっていきました。

でも決して、これが出来上がりではないと思っています。この冊子を手にして頂いた皆様に

も、それぞれ自由な発想で、色々な使い方を楽しんで頂けたら皆様ともつながり、そこで初めて出来上がるのではないかと考えています。

ですから、この冊子に載っていることは、もしかしたらまだ、ほんの一部かもしれません。これからたくさんの人が、この教材を使って活動する…という形で教材作りに参加し、つながっていくことができれば、とても嬉しいです。

大谷 真由美（作成協力者／ひまわり21）

教室を訪れるO初級者の緊張をやわらげ、和やかな雰囲気を作る一助になればとの思いから描き始めた絵カードですが、絵には描く人自身を元気にする力もあるようです。描けば描くほど、私自身が元気になり、楽しく書き続けることができました。

この機会を与えてくださった全ての方に感謝申し上げます。今後は学習者、スタッフをさらに巻き込んで絵カードの枚数を増やし、皆で元気に教室活動に取り組んでいきたいと思っています。

後藤 美奈子（執筆者／ひまわり21）

私が日本語教室《呉》に参加し始めたころは、右も左も分からず市販のテキストをコピーして使ったり、一度にあまりに多い学習項目を教えようとしていたりしました。私たちの教室に来られる方は仕事の後來られる方が多く、教室に来る目的も日本語学習から生活で困っていることの相談、日本人と話したいなど様々です。

ある日のこと、担当している子の顔を見ると楽しくなさそうなのです。私はその教室活動をどうこなすかにばかり気をとられて、相手の様子をみられていなかったのです。そうだな、仕事の後で疲れているのに私が準備したものは楽しくないなあと、彼のおかげで自分のことを客観的にみることができました。

それから他のスタッフがどんな風に教えているのか見たり聞いたり、何をどのように使えば効果的に伝えたい言葉の意味が伝わるのかなどを考えるようになりました。市販のテキストを離れ、新聞のチラシを使ったりパソコンでイラストを入れたインタビューシートを作ったりするようになっていきました。

教室に毎週続けて参加する人ばかりではありませんから、週1回の活動ではテキストのように順序立ててできないことを痛感し、もっと自由に活動を行えばいいのだと思うようになりました。そうした中で、初めて日本に来られた方や長くいても日本語があまり話せない方のための教材がほしいなと思うようになり、どこかにないかと探しました。参考になるものはあり

ましたが、それらはどうしてもビジュアル的にモノクロのものになってしまいます。もし私たちが教材を作るのなら、もっとカラフルなイラストや地域の写真を使いたい、活動のなかで学ぶ言葉も普段使う言葉にしたいと思うようになっていきました。思いは募っていきましたが、いざ教材を作ろうとなると重い腰が上がらない状態が続きました。そして、今回文化庁の地域日本語教育支援事業に採用されたことを機に、この教材を作ることができました。この教材はまだこれから進化します。お店の写真の裏に「火曜日が買い得！」みたいな情報を入れたら楽しいと気づき、すでに形を変えつつあります。

この冊子を手にとった方の地域で、学習者とともに教材作りを通した楽しい日本語学習や情報交換が始まればいいなと思っています。

また、冊子の中にあるものはこの形以外でも使えると思います。

楽しんで使ってくださいね！！

堀 郁恵（執筆者／ひまわり21）

教材作成のために、外国人の人たちが働く職場に出かけた。真夏だったのにとても熱く、喧噪の中で働いていて、大変さを実感した。こんな中で、言葉も通じないのは、とても辛いだろうと思う。そんな、厳しい環境で働いているからこそ、日本の良いところや美しいところ、日本人の優しさにも触れて欲しいと感じた。

日本語教室は、言語能力を高める場であるのはもちろんだが、それ以上に、そうした場になっているのではないだろうか。

新宅 正和（事務局／呉市教育委員会 文化振興課 社会教育係）

地域の人たちの手で地域の実情に沿った教材を作成する事業で、今回作成した教材は、環境や年代の違う人たちの意見が入ったもので、とても新鮮なものになったのではないかと思います。

また、本事業の編修委員会の委員の皆様、執筆者の皆様、そして、この教材作成に関して御協力いただいた皆様のおかげをもちまして本教材が完成したことに深く感謝します。

奥田 修司（事務局／呉市教育委員会 文化振興課 社会教育係）

手をつなごう

ー全員参加の教材づくりをめざしてー

編著者スタッフ

- ・教材作成編集委員会
- ・伊藤 美智代（執筆者）
- ・後藤 美奈子（執筆者）
- ・堀 郁 恵（執筆者）
- ・大谷 真由美（作成協力者）
- ・呉市教育委員会